

相互理解から相互学習を可能にする 地域性を活かした 就農マッチングシステムの提案

公立はこだて未来大学 美馬のゆり研究室所属

大島 直幸

島脇 萌夏

沼山 翔

溝上 雄太

テーマA: 地域の人口減少・少子高齢化を〇〇で解決する

テーマC: 地域の〇〇産業を〇〇で元気にする

提案

IT、地域情報、学習
を活用した就農マッチングシステム

道南の農業の問題

①農業経営者の高齢化

→出生率低下による少子高齢化

②農家経営の後継者不足

→農家数減少による耕作放棄地の増加

→農家就業人口減少による第一次産業の衰退

③農産物販売金額の減少

→地域経済の悪化

④死亡事故のリスク

道南の農業の問題①

	2005年	2010年
函館市	63	64
北斗市	61	64
今金町	55	57
森町	58	61
せたな町	56	59
厚沢部町	59	62
八雲町	56	57
七飯町	62	63
乙部町	65	69
江差町	62	65
上ノ国町	65	66
木古内町	56	60
知内町	58	61
松前町	64	61
福島町	データなし	データなし
鹿部町	データなし	データなし
長万部町	57	60

農業経営者の平均年齢の増加

道南全体では
2005年:59.8歳 → 2010年:61.9歳
5年間で2.1歳増加している。

北海道全体の平均年齢は
2010年:58歳
→北海道全体と比べても、道南全体の
平均年齢が高い。

※赤字は平均年齢が上がった
青字は平均年齢が下がった

道南の農業の問題②

	高齢化率(%)
函館市	45.19%
北斗市	48.12%
今金町	30.33%
森町	36.6%
せたな町	36.51%
厚沢部町	41.89%
八雲町	32.9%
七飯町	41.51%
乙部町	70.86%
江差町	62.14%
上ノ国町	56.54%
木古内町	44%
知内町	49.72%
松前町	52.63%
福島町	データなし
鹿部町	データなし
長万部町	41.89%

農業就業人口の高齢化率

北海道全体の平均の高齢化率

2010年: **34.4%**

道南全体では

2010年: **46.3%**

* 1

道南全体の農家人口19,730人のうち

9,134人が65歳以上の高齢者

(注1)国土交通省 北海道開発局 道南の農業

※高齢化率: 農業就業者全体のうち、
65歳以上の就業者の割合

道南の農業の問題③

	販売金額(万円)
函館市	-50,775
北斗市	+6,300
今金町	+110,325
森町	-97,850
せたな町	-275
厚沢部町	-3,100
八雲町	-7,175
七飯町	-10,900
乙部町	-75,275
江差町	-5,025
上ノ国町	-37,775
木古内町	-3,125
知内町	+2,825
松前町	-32,775
福島町(2005年データなし)	+100,875
鹿部町	-14,800
長万部町	+16,300

農産物販売金額の減少

2005年から2010年にかけての比較

17市町のうち、12市町の農産物販売金額が減少している(鹿部町は2005年のデータなし)。

※赤字は販売金額が減少
青字は販売金額が増加

道南の農業の問題④

農作業中の死亡事故の増加

表、農作業中の死亡事故発生件数の推移

		1971年	75	80	85	90	95	2000	05	08
全体		364 (100.0)	413 (100.0)	353 (100.0)	367 (100.0)	384 (100.0)	397 (100.0)	406 (100.0)	395 (100.0)	374 (100.0)
	農業機械・施設作業にか かる事故	204 (56.0)	225 (54.5)	223 (63.2)	267 (72.8)	296 (77.1)	295 (74.3)	314 (77.3)	286 (72.4)	277 (74.1)
	農業機械・施設以外の作 業にかかる事故	160 (44.0)	188 (45.5)	130 (36.8)	100 (27.2)	88 (22.9)	102 (25.7)	92 (22.7)	109 (27.6)	97 (25.9)

表、高齢者が占める割合の推移

		1971年	75	80	85	90	95	2000	05	08
全体		364 (100.0)	413 (100.0)	353 (100.0)	367 (100.0)	384 (100.0)	397 (100.0)	406 (100.0)	395 (100.0)	374 (100.0)
	60歳以上	132 (36.3)	175 (42.4)	140 (39.7)	180 (49.1)	230 (59.9)	288 (72.5)	317 (78.1)	330 (83.6)	323 (86.4)
	65歳以上	—	—	—	—	—	—	269 (66.3)	298 (75.4)	296 (79.1)

問題から導く解決策

- ①出生率低下による少子高齢化
- ②農家数減少による耕作放棄地の増加、
農家就業人口減少による第一次産業の衰退
- ③地域経済の悪化
- ④死亡事故のリスク

→ 若者の就農

問題から導く解決策

若者の就農支援の問題

→ インターンシップ

インターンシップの問題

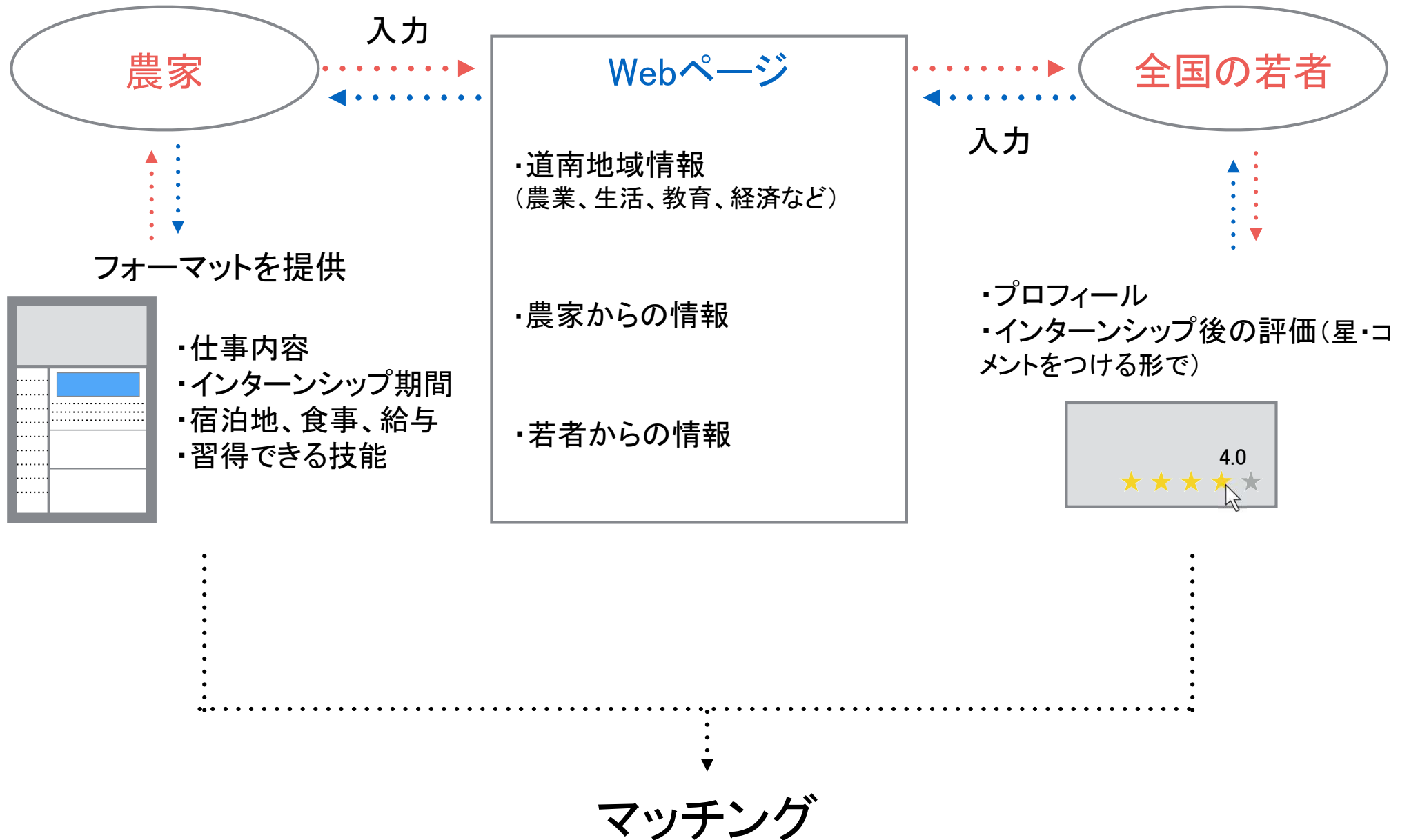
- ・労働条件の提示が不完全
- ・仕事内容の情報公開不足

→ マッチングシステム

提案

道南地域の農家と全国の若者をマッチングさせ、
農業インターンシップを通じた相互学習と
就農の機会を与えるシステム

システムの概要



システムの概要



- 情報公開（農作業の内容、インターンシップの期間、宿泊地、食事、給与）
- インターンシップ期間中、どのような仕事を体験できるのか、インターンシップを通してどのような技能を得られるのか。
- 学習の質を保証する仕組み

システムの概要



- ・プロフィール(農業経験年数、農業に対する考え etc)
- ・農家に対してのインターンシップのフィードバック

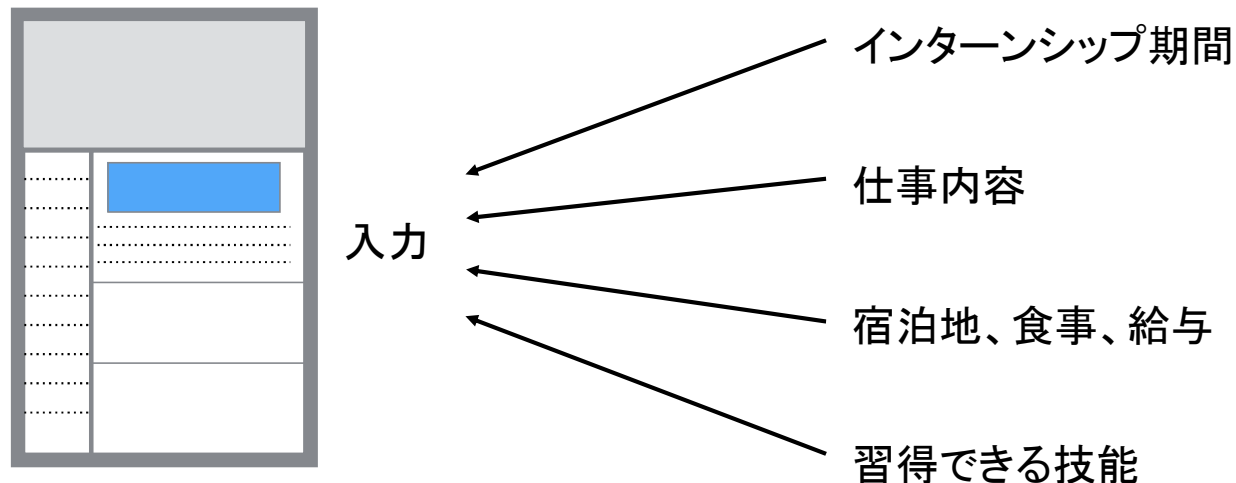
システムの機能① フォーマット

フォーマットを提供することで

- ・情報公開の手間を軽減
- ・情報から様々な条件で検索
- ・情報のバラツキの防止

を可能にする。

(例)



システムの機能② 検索

- ・農家が投稿した情報
- ・地域の情報(農業、生活、教育、地域経済、不動産)
- ・現地での仕事情報(農業)
- ・支援体制の情報 などの並べ替えを可能にすることで若者側
が知りたい情報を容易に取得できる

(例)

入り混じった情報



ソート



ソート結果

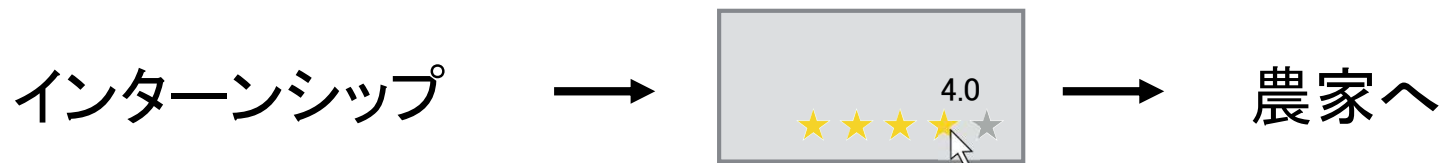


RESASへのリンクで、さらに詳しい情報の提供を可能に

システムの機能③ フィードバック

インターンシップ終了後、両者のフィードバックを行う

若者：体験からの学習により意識の変化を認識させ、
就農への意欲の高まりを期待
インターンシップの体験に基づき、星・コメントを
つける形で評価



農家：評価をもとにした体験内容の再検討

若者に仕事を教えることを通して、日常作業を改善

システムの機能④ 地域情報

現地の情報を詳しく掲載

- ・現地の特徴的な作物
- ・作物別の農家の平均年収
- ・現地の学校など、教育現場の情報
- ・経営塾などの自治体の支援情報
- ・地元の農家と契約を結ぶレストラン
- ・不動産情報 etc

若者だけの視点ではなく、
その家族にも視野を広げて情報を公開

提案によるメリット

- 出生率低下による少子高齢化
 - 若者の就農により少子高齢化の防止
- 農家数減少による耕作放棄地の増加
 - 新たな人材による耕作地の保持
- 農家就業人口減少による第一次産業の衰退
- 地域経済の悪化
 - 農家就業人口増加による活性化
- 死亡事故のリスク
 - 低下させられる

展望

- ・農家の情報、インターンシップのフィードバックを収集することによって多くのデータが集まる。
→ビッグデータを活用

学習し成長するシステム

- ・道南の地域情報だけでなく
全国各地の地域情報、農家情報を掲載
→全国版のマッチングシステムとして、新しい
就農方法を展開

ご静聴ありがとうございました